

平成 28 年度 第 2 回 理 事 会 の 開 催

平成 28 年度第 2 回理事会が、平成 28 年 6 月 22 日、明治記念館・丹頂の間において開催された。本理事会では、協議事項として、「第 73 回 通常総会対応に関する件」について協議し、了承された。続いて説明・報告事項として、「1 部会委員会に関する件」、「2 第 2 回 世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議の開催に関する件」、「3 熊本地震支援・救護活動等に関する件」、「4 業務執行状況に関する件（業務運営概況等を含む）」について説明、報告がなされ、連絡事項として、「1 当面の主要会議等の開催計画に関する件」、「2 日本獣医師政治連盟の活動報告に関する件」が説明された（第 2 回理事会の議事概要は下記のとおり）。

平成 28 年度 第 2 回理事会の議事概要

I 日 時：平成 28 年 6 月 22 日（水） 10:30～12:00

II 場 所：明治記念館・丹頂の間

III 出席者：

【会 長】 藏内勇夫

【副 会 長】 砂原和文、村中志朗、酒井健夫（学術・教育・研究兼獣医学術学会担当職域理事）

【専務理事】 境 政人

【地区理事】 高橋 徹（北海道地区）

山内正孝（東北地区）

高橋三男（関東地区）

小松泰史（東京地区）

宮澤 宏（中部地区）

玉井公宏（近畿地区）

安食政幸（中国地区）

寺町光博（四国地区）

坂本 紘（九州地区）

【職域理事】 麻生 哲（開業・産業動物臨床）

細井戸大成（開業・小動物臨床）

横尾 彰（家畜共済）

鎌田健義（家畜防疫・衛生）

加地祥文（公衆衛生）

木村芳之（動物福祉・愛護）

栗本まさ子（特任）

【監 事】 柴山隆史、波岸裕光、山根 晃

【オブザーバー】

北村直人（日本獣医師政治連盟委員長）

IV 議 事：

【協議事項】

第 73 回 通常総会対応に関する件

【説明・報告事項】

1 部会委員会の開催に関する件

2 第 2 回 世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議の開催に関する件

3 熊本地震支援・救護活動等に関する件

4 職務執行状況に関する件（業務運営概況等を含む）

5 その他

【連絡事項】

1 当面の主要会議等の開催計画に関する件

2 その他

V 会議概要：

【会長挨拶】

1 冒頭、藏内会長から大要次の挨拶がなされた。

(1) 役員各位におかれては、ご多忙のところ、また足元の悪い中、本理事会への出席に対しお礼申し上げる。

(2) 本日、参議院選挙の告示日であるが、地元の九州では大雨であいにくの出陣式となった。また、昨日、熊本でも豪雨による被害者が出ており、改めて熊本における大震災、豪雨でお亡くなりの方々に心からご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された方にお見舞いを申し上げたい。われわれ執行部も 4 月 16 日の本震の日に本会に対策本部を設置し、地方獣医師会の協力をいただきながら、現地支援を重ねてきた。本件はホームページ、日本獣医師会雑誌に掲載しており、構成獣医師各位にもお目通しいただきたい。

(3) 本年 11 月に北九州市で開催する One Health に関する国際会議では、ノーベル賞受賞者の田中耕一先生の基調講演、福岡県主催の公開シンポジウムにおける宇宙飛行士の毛利 衛さんの講演、ガラ・ディナー等の企画を予定しており、さらに翌日開催の動物感謝デーでも、国際会議と同様、福岡県、北九州市の全面的な協力を得て、最終的な企画を詰めているところである。執行部一同、万全を期して本国際会議を成功に導きたく、理事各位におかれても引き続きのご支援を重ねてお願い申し上げます。

(4) 本日午後の総会での円滑な議事進行をお願い申し上げます。挨拶にかえさせていただきます。

2 定款第40条の規定に基づき、藏内会長が議長に就任し、以下の議事が進められた。

【協議事項】

第73回 通常総会対応に関する件

境専務理事から、第73回通常総会における議事運営等について説明が行われた後、了承された。

【説明・報告事項】

1 部会委員会の開催に関する件

- (1) 境専務理事から、職域総務部会の野生動物対策検討委員会については、平成23年10月に公表した中間報告に対し、地方獣医師会から「救護対象種を限定する救護活動は、動物種を選別することなく受け入れている現場の実態と乖離している。十分議論することを願う」との意見を受け、その後も議論を重ね、長年にわたり積み上げた傷病野生動物救護の意義を明らかにし、さらに発展させて、生物多様性の保全に貢献する全国的な取組みとして獣医師の活躍の場を広げることを目指して検討し、報告書を取りまとめた旨が報告された。
- (2) 説明に対する質疑応答として、①従来、イノシシ、鹿に加え、近年のアライグマの農作物の被害の他、東北では射殺された熊の体内から人体の一部が発見される事例等、4名が熊の犠牲になっており、人命救護の観点からも機を逸することなく取り組む必要がある。②地方自治体の財源不足による野生動物センターの廃止等に鑑み、中間報告の内容に危機感をもったが、本報告書では、従来の行政への要望事項であった「ワイルドライフヘルスセンター」という方向を示唆しており、記載内容を評価したい旨意見があった。①について、境専務理事から、本報告書は、農作物に危害を及ぼす、イノシシ、鹿、外来種のアライグマ等は駆除の対象であり、飼育や放獣が禁じられている外来野生動物と併せて、個体数の管理を必要とする一方、稀少種の個体救護とともに、生態系全体を維持する必要があるとされ、双方を連携させながら生態系全体を効率よく保護すべきという趣旨である旨が回答され、了承された。

2 第2回 世界獣医師会-世界医師会 “One Health” に関する国際会議の開催に関する件

境専務理事から、本会議のプログラム(案)として、初日の開会式、田中耕一記念質量分析研究所長の基調講演、2日目の厚生労働省主催の薬剤耐性 (AMR) 対策、毛利 衛宇宙飛行士・日本科学未来館館長による福岡県主催の県民公開講座、本会議最後の「福岡宣言」の採択と調印等について説明がなされ、了承された。

3 熊本地震支援・救護活動等に関する件

境専務理事から、熊本地震への日本獣医師会の対応の経過として、熊本地震救援緊急対策本部の設置、熊本県大震災被災動物救護活動等支援義援金の募集、現地調査団の派遣、動物用医薬品等の無償提供、被災動物診療補助券の発行、現地本部支援要員の派遣、九州災害時動物救援センター開設支援等について説明がなされた。次に村中副会長から、発災から2カ月を経過し、熊本県、熊本市の参加のもと新たな熊本地震ペット救援本部が設置されたことに伴い、県獣医師会へ通常業務のための地元での人材確保を依頼し、本会からの人的派遣を終了することとした。九州災害時動物救援センターについては、九州各県の動物管理センター職員、福岡 VMAT の人的支援を得つつ、長期を見込んだ管理運営のための資金支援が必要である。診療補助券に対する支出も含め、今後の支援に要する義援金は予定額に達しておらず、引き続き地方獣医師会あて支援を依頼したい。続いて境専務理事から、九州災害時動物救援センターの設置について、本会では環境省の支援の下、税制の優遇措置申請を予定している。また、本会の義援金とは別に飼い主等一般の方からの寄付を募っているペット災害対策推進協会の義援金も少額に止まっており、再度支援依頼が必要と考えている。さらに麻生理事から、九州災害時動物救援センターでは、これまで収容した犬猫が体調を崩した際は大分県獣医師会の開業会員が往診対応しているが、センター内の診療所の開設準備を進めている旨説明され、了承された。

4 職務執行状況に関する件 (業務運営概況等を含む)

境専務理事から、平成28年5月21日から6月10日までの業務概況等について説明がなされた。

【連絡事項】

1 当面の主要会議等の開催計画に関する件

境専務理事から、当面の主要会議等の開催計画について説明がなされた。

2 その他

日本獣医師政治連盟の活動報告

北村日本獣医師政治連盟委員長から次のとおり説明がなされた。

先般の理事会で、京都府から特区による獣医学科新設の提案について、地元獣医師会が新設に協力する内容の文書を同府へ提出した旨報告した。これに対し、同獣医師会、地元獣医師政治連盟と日本獣医師政治連盟で調整をした結果、同獣医師会から「今回多大なる心配をかけたが、新設希望の大学には多くの本会会員が勤務しており、その取扱いに苦慮していたところ、京都府農林水

産部からの強い協力要請に断り切れずに、平成28年4月19日付けで本通知を発出した次第である。いずれにしても同獣医師会は、平成26年6月27日に開催された第71回通常総会で決議された、獣医学教育環境の整備・充実によりわが国の獣医学教育を国際水準に到達すべきとする日本獣医師会の活動方針に一貫して賛同してきており、日本獣医師会と一致して行動したい」旨の通知をいただいた。

なお、7月10日の参議院議員の選挙に向けて当連盟では、地方獣医師政治連盟へメール等でさまざまな要請や支援等について依頼している。一つは、地方獣医師会が自身で推薦した地方区の候補者等は必ず当選させていただき、全国区の統一候補及び日本医師会の推薦候補等もあわせての推薦も認める旨総会で決議したので、地区理事各位におかれてもその方向での支援をお願いしたい。